

## 調査結果

### 1. 回答者の基本情報

#### (1) 回答者

全体		事例の提出者	認知症ケア援助者等研修会参加者	その他	無回答
110	(N)	50	53	7	0
100%	(%)	45.5%	48.2%	6.4%	0.0%

#### (2) 所属先の類型

Q2-1) 所属先のサービス類型

複数回答あり)

			居宅サービス	地域密着型サービス	施設サービス	その他	無回答
全体	110	(N)	19	40	42	13	0
	100%	(%)	17.3%	36.4%	38.2%	11.8%	0.0%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	7	21	16	8	0
	100%	(%)	14.0%	42.0%	32.0%	16.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	10	17	24	4	0
	100%	(%)	18.9%	32.1%	45.3%	7.5%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	2	2	2	1	0
	100%	(%)	28.6%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%

#### (3) 回答者の職種

Q2-2) 職種

複数回答あり)

			等施設長・管理者 統括職	看護職員	介護職員	ケアマネジャー 作成担当者	生活相談員	理学療法士 作業療法士	その他	無回答
全体	110	(N)	55	6	41	33	11	1	4	1
	100%	(%)	50.0%	5.5%	37.3%	30.0%	10.0%	0.9%	3.6%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	15	0	27	13	3	0	3	1
	100%	(%)	30.0%	0.0%	54.0%	26.0%	6.0%	0.0%	6.0%	2.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	36	5	12	18	8	1	1	0
	100%	(%)	67.9%	9.4%	22.6%	34.0%	15.1%	1.9%	1.9%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	4	1	2	2	0	0	0	0
	100%	(%)	57.1%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(4) 取得資格

Q2-3) 取得資格

複数回答あり

			2級 ホームヘルパー	1級 ホームヘルパー	介護福祉士	社会福祉士	正看護師	准看護師	介護支援専門員	精神保健福祉士	理学療法士	作業療法士	その他	無回答
全体	110	(N)	29	3	62	24	14	4	70	3	0	1	13	2
	100%	(%)	26.4%	2.7%	56.4%	21.8%	12.7%	3.6%	63.6%	2.7%	0.0%	0.9%	11.8%	1.8%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	18	1	31	6	5	0	23	0	0	0	10	1
	100%	(%)	36.0%	2.0%	62.0%	12.0%	10.0%	0.0%	46.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	2.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	9	1	25	17	9	3	42	2	0	1	3	1
	100%	(%)	17.0%	1.9%	47.2%	32.1%	17.0%	5.7%	79.2%	3.8%	0.0%	1.9%	5.7%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	2	1	6	1	0	1	5	1	0	0	0	0
	100%	(%)	28.6%	14.3%	85.7%	14.3%	0.0%	14.3%	71.4%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(5) 認知症に関わる研修の受講経験

Q2-4) 認知症に関わる研修の受講経験

複数回答あり

			認知症実践者研修	認知症実践 リーダー研修	認知症指導者 研修	バリデーション 研修	ケアソンセンタード ケア研修	DCM研修	センター方式研修	その他	無回答
全体	110	(N)	69	47	57	15	12	6	44	4	10
	100%	(%)	62.7%	42.7%	51.8%	13.6%	10.9%	5.5%	40.0%	3.6%	9.1%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	34	16	8	2	1	0	16	3	7
	100%	(%)	68.0%	32.0%	16.0%	4.0%	2.0%	0.0%	32.0%	6.0%	14.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	31	27	44	11	8	5	24	1	2
	100%	(%)	58.5%	50.9%	83.0%	20.8%	15.1%	9.4%	45.3%	1.9%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	4	4	5	2	3	1	4	0	1
	100%	(%)	57.1%	57.1%	71.4%	28.6%	42.9%	14.3%	57.1%	0.0%	14.3%

(6) 認知症ケアの経験年数

Q2-5) 認知症ケアの経験年数

			1年未満	未 満 1 ～ 5 年	未 満 5 ～ 10 年	未 満 10 ～ 15 年	未 満 15 ～ 20 年	20年以上	無回答	平均
全体	110	(N)	1	17	29	38	12	11	2	10.9年
	100%	(%)	0.9%	15.5%	26.4%	34.5%	10.9%	10.0%	1.8%	
事例提出者 (実践者)	50	(N)	1	16	14	11	5	2	1	8.4年
	100%	(%)	2.0%	32.0%	28.0%	22.0%	10.0%	4.0%	2.0%	
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	0	1	14	24	7	7	0	12.7年
	100%	(%)	0.0%	1.9%	26.4%	45.3%	13.2%	13.2%	0.0%	
その他 無回答	7	(N)	0	0	1	3	0	2	1	14.5年
	100%	(%)	0.0%	0.0%	14.3%	42.9%	0.0%	28.6%	14.3%	

(7) ひもときシートを活用してから記入日までの期間

Q2-6)ひもときシート使用後から記入日までの期間

			1 } 3 ヶ月	4 } 6 ヶ月	7 } 9 ヶ月	10 } 12 ヶ月	12 ヶ月 超	無 回 答	平 均
全体	110	(N)	12	64	7	4	10	13	6.2ヶ月
	100%	(%)	10.9%	58.2%	6.4%	3.6%	9.1%	11.8%	
事例提出者 (実践者)	50	(N)	6	28	3	6	5	2	6.7ヶ月
	100%	(%)	12.0%	56.0%	6.0%	12.0%	10.0%	4.0%	
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	6	34	4	3	0	6	5.5ヶ月
	100%	(%)	11.3%	64.2%	7.5%	5.7%	0.0%	11.3%	
その他 無回答	7	(N)	0	2	0	0	0	5	4ヶ月
	100%	(%)	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	71.4%	

## 2. 事例に直面した当初の状況について

### (1) アドバイスや指導をしてくれる人の存在

Q3-2) この事例について、アドバイスや指導をしてくれた人はいましたか。

			いた	言 ど え ち ら な い と も	い な か っ た	無 回 答
全体	110	(N)	52	29	27	2
	100%	(%)	47.3%	26.4%	24.5%	1.8%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	36	7	7	0
	100%	(%)	72.0%	14.0%	14.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	14	19	19	1
	100%	(%)	26.4%	35.8%	35.8%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	2	3	1	1
	100%	(%)	28.6%	42.9%	14.3%	14.3%

### (2) 事例を相談する機会

Q3-3) この事例について、家族や関係者に相談する機会がありましたか。

			あ っ た	言 ど え ち ら な い と も	な か っ た	無 回 答
全体	110	(N)	76	13	19	2
	100%	(%)	69.1%	11.8%	17.3%	1.8%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	30	9	11	0
	100%	(%)	60.0%	18.0%	22.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	41	3	8	1
	100%	(%)	77.4%	5.7%	15.1%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	5	1	0	1
	100%	(%)	71.4%	14.3%	0.0%	14.3%

### (3) 参考になりそうな事例や情報の有無

Q3-4) この事例について、参考になりそうな事例や情報はありましたか。

			あ っ た	言 ど え ち ら な い と も	な か っ た	無 回 答
全体	110	(N)	46	41	20	3
	100%	(%)	41.8%	37.3%	18.2%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	26	15	9	0
	100%	(%)	52.0%	30.0%	18.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	17	24	10	2
	100%	(%)	32.1%	45.3%	18.9%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	3	2	1	1
	100%	(%)	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%

#### (4) 時間的な余裕や話し合いの機会

Q3-5) この事例について、取り組む時間的な余裕や話し合いの機会  
はありましたか。

			あ っ た	言 ど ち え ら な い と も	な か っ た	無 回 答
全体	110	(N)	45	39	23	3
	100%	(%)	40.9%	35.5%	20.9%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	18	21	11	0
	100%	(%)	36.0%	42.0%	22.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	22	18	11	2
	100%	(%)	41.5%	34.0%	20.8%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	5	0	1	1
	100%	(%)	71.4%	0.0%	14.3%	14.3%

#### (5) 職場の雰囲気づくりやチームケアの体制づくり

Q3-6) この事例について、職場の雰囲気づくりやチームケアの体制づ  
くりに取り組みましたか。

			あ っ た	言 ど ち え ら な い と も	な か っ た	無 回 答
全体	110	(N)	58	37	12	3
	100%	(%)	52.7%	33.6%	10.9%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	24	20	6	0
	100%	(%)	48.0%	40.0%	12.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	30	15	6	2
	100%	(%)	56.6%	28.3%	11.3%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	4	2	0	1
	100%	(%)	57.1%	28.6%	0.0%	14.3%

### 3. ひもときシートの活用後の行動

#### (1) 「ひもときシート」記入後の見直しの有無

Q4 見直しの有無

			ある	ない	無回答
全体	110	(N)	82	26	2
	100%	(%)	74.5%	23.6%	1.8%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	41	9	0
	100%	(%)	82.0%	18.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	35	17	1
	100%	(%)	66.0%	32.1%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	6	0	1
	100%	(%)	85.7%	0.0%	14.3%

#### (2) 事例に対する新たな取り組みの有無

Q5 新たな取り組み

			ある	ない	無回答
全体	110	(N)	44	60	6
	100%	(%)	40.0%	54.5%	5.5%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	18	31	1
	100%	(%)	36.0%	62.0%	2.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	23	26	4
	100%	(%)	43.4%	49.1%	7.5%
その他 無回答	7	(N)	3	3	1
	100%	(%)	42.9%	42.9%	14.3%

【新たに取り組んだ具体的な対応】

自由回答	
1	リスク回避より、 <u>本人の思いを大切にしたケアプラン</u> を考えるようになった。
2	多角的に捉えること「 <u>考えること</u> 」「 <u>考え続けること</u> 」の重要性を、スタッフに常に伝えるようになりました。
3	BPSDの原因をより考え、 <u>その場しのぎのケアから、根本的な原因解決のためのケア</u> に視点が動いた。
4	本人と関わる中で、目の前ことだけではなく、 <u>広い範囲で考えることが出来るようになった。</u> (思考展開シート内容より)
5	原因・背景を見つめ直すきっかけにもなりました。
6	利用者の考えや思いに、 <u>以前より共感</u> できるようになった。
7	本人の気持ち(言葉の背景にある状態や思い)をより理解しようと考えるようになった。 <u>本人の言葉(なぜ? 快不快など)に敏感</u> になった。
8	特になし。援助者研修で学んだ取り組みは以前から実践していたから。
9	事例を考えることで、チームとして関わろうとする雰囲気が出てきたので、一人で悩む(頑張る)職員が減った。
10	気に掛かることが(行動・言動等)あった時、見られた時に、対処方法ではなく、 <u>なぜなんだろう? 何か直接的ではない原因が関わっているのではないだろうか?</u> と考えるようになり、カンファレンス等の時も、他の人に「なぜだろう?」など、一緒に考える会議へと変化していった。
11	その人の <u>言葉に耳を傾けること</u> の大切さ、 <u>本人自身の言葉の大切さ</u> に気がついた。
12	一人では事例の提出はできないので、 <u>チームでの協力や関わりが重要</u> だと再認識できた。
13	シートに沿って考えをまとめることで、 <u>全体像が見えるようになった。</u>
14	新人教育の <u>教育的ツール</u> として活用できると考えている。
15	症状を見ていく時に、自分の固定的な視点ではなく、 <u>多角的に広く見ていくように変化</u> したようだ。また、思い込みのような場面が少なくなった気がする。より本人様視点に近づけた気がする。
16	<u>社会資源の活用や地域で活用できる情報の収集</u> に努めるようになった。
17	スタッフの理解度を見たり、 <u>多面的に利用者を捉えること</u> 大切さを伝えるきっかけとなった。
18	事業所に勤務をしていると、サービスを提供することが良い方法と思い込むことを自分でも知らないうちにしていると思った。過度と思えるサービス提供はいけないと自覚した。
19	病気のことや、障害・不自由さと、一人の人として見る視点の、 <u>両方のバランスをより考える必要性が高まった。</u> 今までは病気のことを軽視し過ぎていたように思う。
20	職員に対しての <u>質問の方法や職員の感情の捉え方</u> が変化した。
21	施設サービスの中で利用者の方々が望む暮らしを実現させるために今迄あまり意識していなかった <u>問題点</u> が認識できるようになったと思います。
22	<u>視点の偏り</u> をなくす。
23	全てのケースの記録を念入りに記入するようになった。時間を重ねていくうちに、 <u>予測 対応 評価の繰り返し</u> がスムーズにできるようになった。
24	ある人と向き合う時に、 <u>生活全体</u> を見ながら、支援するようになった。

25	悩みを聞いていただけただけで、 <u>私自身が精神的に安定できた</u> と思います。バーンアウトを防げたと感じています。
26	以前より、 <u>対象者の生活歴・家族との関係が現在の生活を良くしていく上で重要である</u> と思われ、情報をもう一度見直し、考えるようになりました。
27	職員に <u>タイムリーにヒント</u> を出してあげること。
28	<u>環境的要因</u> に対して、以前よりも深く考えるようになった。
29	機会があれば、 <u>事例対象者の生活歴や、自施設入所となるまでの経緯</u> を他の職員にも詳しく話すようになった。
30	本当に悩んでいる時と、愚痴を言いたい時、話をしたい時等、 <u>相手の様子が分かり易く</u> なった。また、普段から関わりを増やすことで、このような訴えが減ってきた。
31	本当にやりたいことは何だろうと、 <u>ケアの前にまず話を聞く</u> ようになり、「はい、 <u>          </u> の時間ですよ。」と言うのを止めた。
32	その方に関わる情報が不足していることが分かり、情報収集に取りかかったが、親類である為、 <u>不明点が多く、なかなか十分な情報収集に繋がらない</u> 。
33	利用者・ご家族だけでなく、スタッフも含め、誰もが大切な人として関わられるようになる。 <u>視野の拡がりを感じ、自分自身の生き方も含め、肯定的に捉えられるようになってきている</u> 。
34	事例対象者に限らず、 <u>ケアのチャンス</u> を捉え、対象者一人ひとりへの心配りが出来るようになりまし、 <u>私自身の大いなる自信に繋がり、対象者の人生史</u> を大切に、笑顔での毎日を送っていただけると心掛けている自分です。
35	早期からの <u>医療との連携</u> 。(体調面の管理や、認知症状への対応。薬物療法。)
36	全く対象者の気持ちを知ろうと思わなかったし、考えたくもなかったが、この事例を通し、 <u>対象者の人生について詳しく知ることで、何でだろう、と考えられるようになった</u> 。 <u>このような人生を歩んできたからこそ、この人が居るんだなあ</u> と、 <u>感じる</u> ことができるようになった。
37	本当に本当に、このシートを書くのは辛かったです。気持ち悪くなるし、頭痛と吐き気がありました。見たくないこと、気づいていても気づかないようにしていた所を、じっくり時間をかけて見ることで、 <u>見ようとしていなかった物が、少しずつ少しずつ見えるようになり、向き合えるようになった</u> 。周りのたくさんの人に助けられました。祖人の生い立ちを見つめることの大切さに気づきました。



#### 4. 回答者の変化

##### (1) 回答者の変化：事例対象者の気持ちの理解

Q6-1) 以前よりも、事例対象者の気持ちが理解できるようになった。

			そ 大 う い 思 に う	そ ま あ 思 う	言 ど え ち ら な い と も	思 あ わ ま な り い	思 全 わ く な い	無 回 答
全体	110	(N)	21	65	19	4	0	1
	100%	(%)	19.1%	59.1%	17.3%	3.6%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	14	32	3	1	0	0
	100%	(%)	28.0%	64.0%	6.0%	2.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	6	29	16	2	0	0
	100%	(%)	11.3%	54.7%	30.2%	3.8%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	1	4	0	1	0	1
	100%	(%)	14.3%	57.1%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%

##### (2) 回答者の変化：事例対象者への多面的な状態把握

Q6-2) 以前よりも、事例対象者の状態を多面的にとらえられるようになった。

			そ 大 う い 思 に う	そ ま あ 思 う	言 ど え ち ら な い と も	思 あ わ ま な り い	思 全 わ く な い	無 回 答
全体	110	(N)	37	57	13	2	0	1
	100%	(%)	33.6%	51.8%	11.8%	1.8%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	18	28	4	0	0	0
	100%	(%)	36.0%	56.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	17	28	7	1	0	0
	100%	(%)	32.1%	52.8%	13.2%	1.9%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	2	1	2	1	0	1
	100%	(%)	28.6%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%

##### (3) 回答者の変化：記録やアセスメント変化

Q6-3) 以前よりも、記録やアセスメントの視点が変化した。

			そ 大 う い 思 に う	そ ま あ 思 う	言 ど え ち ら な い と も	思 あ わ ま な り い	思 全 わ く な い	無 回 答
全体	110	(N)	15	54	35	5	0	1
	100%	(%)	13.6%	49.1%	31.8%	4.5%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	9	28	11	2	0	0
	100%	(%)	18.0%	56.0%	22.0%	4.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	6	24	21	2	0	0
	100%	(%)	11.3%	45.3%	39.6%	3.8%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	0	2	3	1	0	1
	100%	(%)	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%

(4) 回答者の変化：接しかたやコミュニケーション

Q6-4) 以前よりも、事例対象者との接し方やコミュニケーションがスムーズになった。

			そ 大 う い 思 に う	そ ま あ 思 う	言 ど ち え ら な い と も	思 あ ま わ な り ない	思 全 く わ く ない	無 回 答
全体	110	(N)	18	38	41	11	1	1
	100%	(%)	16.4%	34.5%	37.3%	10.0%	0.9%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	12	17	18	3	0	0
	100%	(%)	24.0%	34.0%	36.0%	6.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	6	19	21	6	1	0
	100%	(%)	11.3%	35.8%	39.6%	11.3%	1.9%	0.0%
その他 無回答	5	(N)	0	2	2	2	0	1
	100%	(%)	0.0%	40.0%	40.0%	40.0%	0.0%	20.0%

(5) 回答者の変化：生活環境への配慮

Q6-5) 以前よりも、事例対象者の生活環境を重視するようになった。

			そ 大 う い 思 に う	そ ま あ 思 う	言 ど ち え ら な い と も	思 あ ま わ な り ない	思 全 く わ く ない	無 回 答
全体	110	(N)	24	54	25	6	0	1
	100%	(%)	21.8%	49.1%	22.7%	5.5%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	19	19	11	1	0	0
	100%	(%)	38.0%	38.0%	22.0%	2.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	4	32	13	4	0	0
	100%	(%)	7.5%	60.4%	24.5%	7.5%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	1	3	1	1	0	1
	100%	(%)	14.3%	42.9%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%

(6) 回答者の変化：チームケアへの取り組み

Q6-6) 以前よりも、事例対象者に対するチームケアが活発になった。

			そ 大 う い 思 に う	そ ま あ 思 う	言 ど ち え ら な い と も	思 あ ま わ な り ない	思 全 く わ く ない	無 回 答
全体	110	(N)	13	40	52	4	0	1
	100%	(%)	11.8%	36.4%	47.3%	3.6%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	9	17	23	1	0	0
	100%	(%)	18.0%	34.0%	46.0%	2.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	4	22	24	3	0	0
	100%	(%)	7.5%	41.5%	45.3%	5.7%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	0	1	5	0	0	1
	100%	(%)	0.0%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%	14.3%

(7) 回答者の変化：家族と接する機会

Q6-7) 以前よりも、家族との会話や相談する機会が増えた。

			そ大 うい 思に う	そま うあ 思 う	言ど えち えら ない とも	思あ わま なり ない	思全 わく ない	無 回 答
全体	110	(N)	9	39	41	20	0	1
	100%	(%)	8.2%	35.5%	37.3%	18.2%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	5	16	20	9	0	0
	100%	(%)	10.0%	32.0%	40.0%	18.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	4	21	19	9	0	0
	100%	(%)	7.5%	39.6%	35.8%	17.0%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	0	2	2	2	0	1
	100%	(%)	0.0%	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%	14.3%

(8) 回答者の変化：医療的側面への関心

Q6-8) 以前よりも、医学的な視点や医療関係者との関わりを重視するようになった。

			そ大 うい 思に う	そま うあ 思 う	言ど えち えら ない とも	思あ わま なり ない	思全 わく ない	無 回 答
全体	110	(N)	9	40	45	14	1	1
	100%	(%)	8.2%	36.4%	40.9%	12.7%	0.9%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	5	16	22	7	0	0
	100%	(%)	10.0%	32.0%	44.0%	14.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	4	23	20	5	1	0
	100%	(%)	7.5%	43.4%	37.7%	9.4%	1.9%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	0	1	3	2	0	1
	100%	(%)	0.0%	14.3%	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%

(9) 回答者の変化：事例対象者と関わる時間や機会

Q6-9) 以前よりも、事例対象者と関わる時間や機会が増えた。

			そ大 うい 思に う	そま うあ 思 う	言ど えち えら ない とも	思あ わま なり ない	思全 わく ない	無 回 答
全体	110	(N)	16	49	36	8	0	1
	100%	(%)	14.5%	44.5%	32.7%	7.3%	0.0%	0.9%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	11	23	15	1	0	0
	100%	(%)	22.0%	46.0%	30.0%	2.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	5	23	19	6	0	0
	100%	(%)	9.4%	43.4%	35.8%	11.3%	0.0%	0.0%
その他 無回答	7	(N)	0	3	2	1	0	1
	100%	(%)	0.0%	42.9%	28.6%	14.3%	0.0%	14.3%

## 5. 他の職員の視点や支援方法の変化

Q7 視点や支援方法の変化

			変大 わい つに た	変ま わあ つた	言ど えち らな いと も	変あ わま らな い	変全 わく らな い	無 回 答
全体	110	(N)	8	45	45	9	0	3
	100%	(%)	7.3%	40.9%	40.9%	8.2%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	5	20	22	3	0	0
	100%	(%)	10.0%	40.0%	44.0%	6.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	3	23	21	4	0	2
	100%	(%)	5.7%	43.4%	39.6%	7.5%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	0	2	2	2	0	1
	100%	(%)	0.0%	28.6%	28.6%	28.6%	0.0%	14.3%

## 6. 対象者の変化

Q8 対象者の変化

			改大 善い した	改ま 善あ した	変 化し ない	悪少 化し した	悪大 化い した	無 回 答
全体	110	(N)	8	33	59	1	0	9
	100%	(%)	7.3%	30.0%	53.6%	0.9%	0.0%	8.2%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	3	19	26	1	0	1
	100%	(%)	6.0%	38.0%	52.0%	2.0%	0.0%	2.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	4	14	28	0	0	7
	100%	(%)	7.5%	26.4%	52.8%	0.0%	0.0%	13.2%
その他 無回答	7	(N)	1	0	5	0	0	1
	100%	(%)	14.3%	0.0%	71.4%	0.0%	0.0%	14.3%

【事例対象者の変化】

自由回答	
1	玄関に張り付く回数が減少し、 <u>興奮もしなくなった。</u>
2	手引き歩行、拒否、興奮、暴力。 <u>自立歩行。精神的安定。</u>
3	スタッフの対応の仕方が変わったと思います。それによって <u>BPSD の表れ方が、やや緩やかになった</u> と思います。
4	<u>関わりが変化したのは事実です。本人の不穏症状出現がかなり少なくなり、独語、帰宅発言も落ち着いたように</u> 思います。
5	家族は、「以前に比べて表情が <u>穏やかになった</u> 気がする。」と言われる。他の関係者は、「不快な言葉や大きな声が減った。」と言う。会話が出来るようになった。シート活用も含め、日頃の職員の意欲的な取り組みの積み重ねによる成果だと受け止めている。
6	問題とした「お父さんは？」との頻回(5分おき)の <u>訴えがほとんどなくなった。</u>
7	心を、以前より開いて話をしてくれるようになった。 <u>自分の役割に自信をもって</u> られるようだ。(自ら手伝いを申し出る等)
8	事例の課題は少し改善したが、また新たな課題が出てきてしまった。職員の間わりにより、少しは改善した。
9	食事を先に食べてしまう他入居者さん怒り出してしまうケース。私たちは、他入居者さんが食べないようにという対応をしていたが、 <u>怒る人に話しかけるようになったら、他入居者さんが食べていても怒らなくなった。</u>
10	介助時の <u>大声が減少。</u> 夜間大声を出し、不眠だった方が、 <u>良眠になる日が増す。</u>
11	職員側の対応方法や受け止め方が変化したからだと思われるが、 <u>焦燥感や不穏症状が少し落ち着か</u> れたり、ご自分からの発語が多く聞かれるようになった。
12	職員の間わりに少し変化があり、 <u>利用者の生活が活動的になった</u> と思われる。
13	若年性認知症の方で、病気の悪化、例えば歩行障害、言葉が出ないなどの進行の速さに驚いている。変化はあまりないようです。
14	気分の <u>変化の波が小さく緩やか</u> になった。
15	様々な視点からケアに関わり、背景や本人の想いを考える・分析することによって、新たな気づきももらえた。また、 <u>安心感が</u> 生まれた。
16	対象者の変化と言うより、スタッフの見方が広がったことが、大きく影響していると思われる。居場所が見つかり、そこでの <u>活動が落ち着いて</u> できるようになった。
17	家族への助言等が以前よりも幅広くなったことや、家族の視点の変化により、本人の <u>精神状態が安定</u> した。
18	担当者である私以外に、助言者をはじめ、たくさんの人に支援されていることが実感でき、 <u>安心感が広が</u> ったように思う。

19	BPSD の出現回数が減少した。
20	私たちスタッフは、このシートを用いることによって、自分の困っていた悩み・問題を、その利用者さんの悩み・問題として考えてしまう時がある。(代弁しているつもりになっている。)その事が課題として上がってしまい、ケアすべきところにケアをせず、見過ごしていた時がある。しかし、自分とその利用者さんをしっかり整理していくことができたと思う。
21	訴えが減った。夜寝る時間が増えた。イベントで活躍してもらう他、日々の日常でも、得意の料理をホーム内で作ってもらったり、片付けをしてもらったりして、疲れないう程度に動いてもらうと、「忙しいと毎日あつという間だね。明日も早いから、もう寝るよ。」と笑顔が増えた。
22	コミュニケーションの時間を多く取り、 <u>お互いに余裕ができた。</u>
23	混乱が見られる人に対して、「困った人」みたいな捉え方から、「不安を抱えている人」と捉えられるようになって、傾聴できるようになっていると思われる。
24	チーム全体で多面的に捉えることが出来てきていると思う。 展開シートは、そのためにも、とても理解しやすいと思う。
25	職員から「お母さん」と呼ばれ、自分が生かされることに喜びを見出され、 <u>生き活き</u> していた。自分に戻られたかのように、気配りもできましたし、優越感にひたり、「 <u>私は、まだやれる、頑張れる。</u> 」加齢に対抗している時すらあります。 <u>眩しいくらい</u> になりました。
26	以前は、私と話をしようとしなかった。話しかけても「しゃべるな」と言われていた。笑顔を見たことがなく、私の前では常に眉間に皺が寄り、怒っていた。それが、2人きりの時限定であるが、 <u>お互いの冗談に笑い合えるようになった。</u> 時折、話しかけられる事があった。あまりないが、 <u>笑顔</u> を見られるようになった。

## 7. ひもときシートの活用効果

この設問は、実際にひも解きシートを使った回答者の感想や評価を確認した

### (1) 事例の背景や課題の原因

Q9-1) この事例の背景や原因が分かりましたか。

			分大 か い つ に た	分ま か あ つ た	言 ど ち ら な い と も	分あ か ま ら り な い	分全 か く ら な い	無 回 答
全体	110	(N)	17	67	21	2	0	3
	100%	(%)	15.5%	60.9%	19.1%	1.8%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	12	32	5	1	0	0
	100%	(%)	24.0%	64.0%	10.0%	2.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	5	33	13	0	0	2
	100%	(%)	9.4%	62.3%	24.5%	0.0%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	0	2	3	1	0	1
	100%	(%)	0.0%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%	14.3%

### (2) 対象者の気持ちの理解

Q9-2) この事例の対象者の気持ちが分かりましたか。

			分大 か い つ に た	分ま か あ つ た	言 ど ち ら な い と も	分あ か ま ら り な い	分全 か く ら な い	無 回 答
全体	110	(N)	25	63	19	0	0	3
	100%	(%)	22.7%	57.3%	17.3%	0.0%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	17	27	6	0	0	0
	100%	(%)	34.0%	54.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	7	34	10	0	0	2
	100%	(%)	13.2%	64.2%	18.9%	0.0%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	1	2	3	0	0	1
	100%	(%)	14.3%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%

### (3) 課題解決の糸口

Q9-3) この事例の課題解決の糸口が見つかりましたか。

			分大 か い つ に た	分ま か あ つ た	言 ど ち ら な い と も	分あ か ま ら り な い	分全 か く ら な い	無 回 答
全体	110	(N)	19	50	35	3	0	3
	100%	(%)	17.3%	45.5%	31.8%	2.7%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	10	27	11	2	0	0
	100%	(%)	20.0%	54.0%	22.0%	4.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	8	23	20	0	0	2
	100%	(%)	15.1%	43.4%	37.7%	0.0%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	1	0	4	1	0	1
	100%	(%)	14.3%	0.0%	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%

(4) 連携すべき人や資源の発見

Q9-4) この事例の対応に向けて、連携すべき人や資源が見つかりましたか。

			分大 か い つ に た	分ま か あ つ た	言 ど え ち な ら い と も	分あ か ま ら り な い	分全 か く ら な い	無 回 答
全体	110	(N)	18	50	38	1	0	3
	100%	(%)	16.4%	45.5%	34.5%	0.9%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	11	27	11	1	0	0
	100%	(%)	22.0%	54.0%	22.0%	2.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	6	21	24	0	0	2
	100%	(%)	11.3%	39.6%	45.3%	0.0%	0.0%	3.8%
その他 無回答	5	(N)	1	2	3	0	0	1
	100%	(%)	20.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	20.0%

(5) 事例への具体的な支援方法の見通し

Q9-5) この事例の対応に向けて、支援の方法が見つかりましたか。

			分大 か い つ に た	分ま か あ つ た	言 ど え ち な ら い と も	分あ か ま ら り な い	分全 か く ら な い	無 回 答
全体	110	(N)	18	53	33	3	0	3
	100%	(%)	16.4%	48.2%	30.0%	2.7%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	13	25	10	2	0	0
	100%	(%)	26.0%	50.0%	20.0%	4.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	5	26	19	1	0	2
	100%	(%)	9.4%	49.1%	35.8%	1.9%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	0	2	4	0	0	1
	100%	(%)	0.0%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%

(6) 取り組むべきことへの理解

Q9-6) この事例の対応に向けて、自分自身がすべき事が何かわかりましたか。

			分大 か い つ に た	分ま か あ つ た	言 ど え ち な ら い と も	分あ か ま ら り な い	分全 か く ら な い	無 回 答
全体	110	(N)	25	54	28	0	0	3
	100%	(%)	22.7%	49.1%	25.5%	0.0%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	19	22	9	0	0	0
	100%	(%)	38.0%	44.0%	18.0%	0.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	6	29	16	0	0	2
	100%	(%)	11.3%	54.7%	30.2%	0.0%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	0	3	3	0	0	1
	100%	(%)	0.0%	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	14.3%



(7) 回答者のストレスの軽減効果

Q10 回答者自身のストレスの変化

			大いに減った	まあ減った	どちらでもない	少し増えた	大いに増えた	無回答
全体	110	(N)	17	27	58	6	0	2
	100%	(%)	15.5%	24.5%	52.7%	5.5%	0.0%	1.8%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	12	10	26	2	0	0
	100%	(%)	24.0%	20.0%	52.0%	4.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	5	16	27	4	0	1
	100%	(%)	9.4%	30.2%	50.9%	7.5%	0.0%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	0	1	5	0	0	1
	100%	(%)	0.0%	14.3%	71.4%	0.0%	0.0%	14.3%

(8) 他の事例への活用について

Q11 他の事例の活用有無

			ある	ない	無回答
全体	110	(N)	38	70	2
	100%	(%)	34.5%	63.6%	1.8%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	13	37	0
	100%	(%)	26.0%	74.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	24	28	1
	100%	(%)	45.3%	52.8%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	1	5	1
	100%	(%)	14.3%	71.4%	14.3%

Q11-SQ1活用した事例数

			1件	2件	3件	4件	5件以上	無回答
全体	38	(N)	17	13	2	2	4	0
	100%	(%)	44.7%	34.2%	5.3%	5.3%	10.5%	0.0%
事例提出者 (実践者)	13	(N)	7	4	0	1	1	0
	100%	(%)	53.8%	30.8%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	24	(N)	10	8	2	1	3	0
	100%	(%)	41.7%	33.3%	8.3%	4.2%	12.5%	0.0%
その他 無回答	1	(N)	0	1	0	0	0	0
	100%	(%)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

## 8. ひもときシートの効果について

### (1) 今後の活用に関する意向

Q12 今後の活用に関する意向

			はい	え ど ち ら と も 言	いい え	無 回 答
全体	110	(N)	82	21	4	3
	100%	(%)	74.5%	19.1%	3.6%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	42	5	3	0
	100%	(%)	84.0%	10.0%	6.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	36	15	0	2
	100%	(%)	67.9%	28.3%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	4	1	1	1
	100%	(%)	57.1%	14.3%	14.3%	14.3%

### (2) 困難をひもとける可能性

Q13 困難をひもとく可能性

			大 い に 思 う	ま あ 思 う	言 ど ち ら と も え な い	思 あ ま り な い	思 全 く な い	無 回 答
全体	110	(N)	31	63	11	2	0	3
	100%	(%)	28.2%	57.3%	10.0%	1.8%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	18	27	4	0	0	1
	100%	(%)	36.0%	54.0%	8.0%	0.0%	0.0%	2.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	11	34	4	2	0	2
	100%	(%)	20.8%	64.2%	7.5%	3.8%	0.0%	3.8%
その他 無回答	7	(N)	2	2	3	0	0	0
	100%	(%)	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%

### (3) ひもときシートの活用価値

Q14 ひもときシートの活用価値

			大 い に 思 う	ま あ 思 う	言 ど ち ら と も え な い	思 あ ま り な い	思 全 く な い	無 回 答
全体	110	(N)	36	59	10	2	0	3
	100%	(%)	32.7%	53.6%	9.1%	1.8%	0.0%	2.7%
事例提出者 (実践者)	50	(N)	19	27	4	0	0	0
	100%	(%)	38.0%	54.0%	8.0%	0.0%	0.0%	0.0%
研修参加者 (指導者層)	53	(N)	15	29	6	1	0	1
	100%	(%)	28.3%	54.7%	11.3%	1.9%	0.0%	1.9%
その他 無回答	7	(N)	2	3	0	1	0	1
	100%	(%)	28.6%	42.9%	0.0%	14.3%	0.0%	14.3%

【ひもときシートに関する評価】

自由回答	
1	事業所内でカンファレンスするときや BPSD 解決に向けてシートを中心に <u>してコミュニケーションすることに効果を認めると感じました。このシートには、考えられることが明記されているので、多様な視点で事例を見られ、その人をより理解できると感じています。</u>
2	小さな規模で対象者を深く知るためには、とても有効なツールだと思うが、活用するには、万人誰でもできるというものではないと思うし、日常時に使用するには、 <u>時間が多く必要であるため、困難な点もあると考えられる。</u>
3	どこから手をつけて良いのか分からなかったが、具体的に取り組めるようになった。
4	情報収集し、整理するまでに少し時間がかかってしまったのは、単純にシートに慣れないためなのでしょうか。短時間で、チームで情報を共有し、サービスにつなげることが出来れば、 <u>価値のあるものだと思う。</u>
5	同じ目線の切り口から課題に向かう事ができる。 センターの E シート時の前に行い「ひもときより」と記入して、併用すると良いと思う。
6	スタッフ視点から、本人視点への切り替えができる。特に BPSD 出現時、有効と思われる。
7	今まで気づくことがなく過ぎていた事柄 が、 <u>思考展開シートを使用することで、気づきが出来たと感じる。</u> 対応困難な事例であったが、事例記入後 3～4ヶ月過ぎた今現在、解決までには到達していないまでも、本人が穏やかに過ごす時間が増えたと感じている。
8	なぜ立ち上がりがあるのか、なぜ落ち着かないのか、いろいろな角度で見ることが出来、それを新人からベテランスタッフまで共有することが出来る。ツールの1つであった。また、他のスタッフに紹介することで、他スタッフもいろいろな気づきがあると思う。に
9	考えや今知っていることを整理できた。 <u>自分が見落としていた視点に気づけた。</u> <u>ご本人の気持ちを想像し、考えるきっかけとなった。</u>
10	人それぞれで、認知症でもいろいろな方が居られるので、背景や環境など、いろいろ書くことにより、それ以上を考えるようになって、 <u>一つずつ見つめ直す所がありました。</u>
11	今後の改良(シートレイアウトの見直し、シート量の見直し)等をどのようにするかで変わってくるが、 <u>思考展開という「ターゲット」は、大きな価値があると思われる。</u> 今のものは、このシートを活用するだけのレディネスがまだ足りていないと思われるし、忙しい中、たまに使ってみようかなと思う程度と考えます。
12	本人の <u>アセスメント</u> を多面的に行うきっかけになる。自分達職員が、思い込んでいる情報や事柄を分けて考えることで、本人の状態や想いなどを整理できる。
13	認知症ケア = その人を深く知ることが重要と思えるから、ひもときシートは、 <u>いろいろな角度からその人を知ることができる。</u>
14	思考展開シートによって、視点が增える。ただ、書かれている意味を職員が把握することが重要。

15	一人の人をいろいろな角度から捉えることの重要性を再認識できる。 <u>一方で、アセスメントのための情報を掴んでいても、具体的な実践に結びつけない(できていない)ケースもまだ多く、情報活用をしていくための工夫が必要だと感じている。思考展開シートは、その点に対応できると考えるが、個人の能力にかなり左右されるような気がした。</u> フローチャートのできると、つまり年代の人たちのツールとしてもっと有効になると思うが、現状では、援助者が情報を提供(考え方の提供)するツールとしての方がスムーズかと思われます。
17	今の目の前の状況ばかりにケアが集中してしまい、それで問題が解決できなければケア者がストレスを感じたり、本人に適切なケアができない悪循環になってしまったりする原因について、分析することが出来ず、「認知症だから」と諦めてしまうことになるが、このシートを使って記入していくと「 <u>このことは分かっている</u> 」と思うことに出会い、前向きになれる。そして、助言をされている感覚で次々と進めるので、成果が出て、やる気を取り戻せるから <u>価値がある。ただ、シートが多く、考えることも多いので、一人では出来ない。</u>
18	思考展開シートで、 <u>重複する部分があり、少々改善部分もあるのではと思うが、いろいろな視点からその人を見るというツールとしては使いやすく、他の人に教える・説明するにも、とても分かり易く、ツールとして活用できると思う。</u>
19	本人をよく見るということが大切とされることが分かりました。とても良い点と考えます。センター方式も含めて記入することが大変だという意見が多くあると思いますが、大変なことをしないとその人に近づくことは出来ません。是非頑張ってください。
20	認知症ケアに限らず、現場における課題等をテーマに、マンドラートを活用する意義があるのではないか。
21	利用者を職員の目だけで見るのではなく、家族を含めた複眼によって、表れた課題に、全体的な対応をすることの大切さが再認識できた。
22	事例ワークシートを記入したことで、私たちの思い“本人に気分良く食事して欲しい”と、本人の願い“もっと私に話しかけて欲しい”が違っていたことに気づけた。お互いの思い・願いが違っていることは多々あると思うので、それを見つけ出し、気づけるシートだと感じた。
23	様々な視点から利用者を考えられる。
24	抵抗なく書きやすいと思ったから。 気づきを高めるという意図が、認知症ケアではとても大切なことと感じているから。 カンファレンス・研修会の中で活用することで、より、 <u>気づきや本人の理解につながる</u> こと、 <u>職員間の気づきの相乗効果につながる</u> と思ったから。
25	当施設には、入所と通所がある。入所においては、認知症専門棟があり、センター方式・パーソンセンタードケア・ICF等の勉強会を積み重ね、事例検討会を定期的に行っているため、「ひもときシート」の導入はスムーズであった。しかし、通所においては、認知症の方のケアの経験が少ないスタッフが多く、勉強会も認知症についてはあまり行っていないので、「ひもときシート」の導入を試みようとしたが、すぐには困難であった。そのため、“大いに”ではなく、“まあ”とした。

26	<p>本来考えるべきことを分かり易くシートにただけの物に感じる。認知症介護の中では、様々な背景要因を考える必要があると思われるが、それは、自分の思考の中で考えることと思っています。シートを活用することはなくても、背景を考察することは出来ると思いますし、その日、その時の本人の状況は時間ごとに変化しています。<u>シートに記入する時間、見直す労力、日々の変化についての記載が、実際の仕事の中でどこまで出来るか？</u>実際には追いつかないと思います。まして、BPSD の見られる方が複数居れば、さらに最初記入したままになってしまおうと思います。他施設を見学する中で、24 時間シートを活用している所を数箇所回りましたが、実際には、ファイルに入れてしまい、確認できない状況であったり、見直しが出来ていなかったりして、あまり効果的には使えていないとのことでした。しかし、介護の実際の現場では、それが現状だと思います。<u>現在の介護職員の処遇を考えた時、当たり前のように時間外であることを職員に求めることはできません。認知症の正しい理解をすることで、自分から背景要因を考えることができるような職員を育てることの方が、大切ではないか</u>と思います。県、市町村により、認知症実践者研修・リーダー研修などの幅広い受講が出来るようにすることが、介護全体のレベルアップが図れ、意識が変わってくるのではないかと考えます。そのような研修の中では、思考展開のためのシートを活用できると思いますが、実際の現場では活用することは難しいと思います。</p>
27	<p>向き合う時間や、関わる時間が長くなればなるほどに、特に認知症ケアは、その方を多面的・多角的に見て理解していこうという意識は薄くなってしまおうので、新たに煮詰まった時、悩んだ時こそ、<u>こういう考え方をチームで取り組んでみる</u>ということが大切だと思うから。</p>
28	<p>シートに慣れないことが原因で、効果が実感できない。</p>
29	<p>他のスタッフが、事例の対象者を捉える時の、参考になると思う。</p>
30	<p>自分も、もう少し使いこなせるようになり、他スタッフに降ろせるようになれば、活用価値も上がると思います。</p>
31	<p>個人情報の部分で、ご家庭の同意を得る部分で、少し大変であると思います。ご家庭の理解も重要になってくるのかと思いました。</p>
32	<p>利用者を見る視点・気づきの重要性、どのような視点で考えて、ケアを構築していくかということ、人材育成のツールとしては効果があると思う。</p>
33	<p>“困難事例”に出会った時の思考展開のガイドラインとして役立つと思う。ワークシートの項目を頭の中に入れてチームケアの中で活かす。カンファレンスの“質問”投げ掛け(本人視点に立った問題の捉え返し)の仕方に取り入れることが大切だと思う。</p>
34	<p>多方面から考えられるのでいいのではないかと。このような時間や、考える余裕が必要と思った。</p>
35	<p>使いこなしたら良いと思う。</p>
36	<p>利用者の想いや行動に対して考えることができ、きちんと文章化できることで、課題などが一定の見解で把握できると思う。ただし、<u>家族のサポートも引き出すために、これを用いることは有効な手段である</u>と思っている。</p>
37	<p>私たち介護職は、要介護者のできないことや不自由な部分を見つけるのは得意で、対応策もいろいろ考えることができると思う。それに対しての知識も増えてきて、様々な理論が身についても、まだまだ個人の中だけの解釈で停まっていたり、<u>“分かったつもり”</u>になっていることも多い。それらをきちんとした“根拠”とするために、とても良いと思う。</p>
38	<p>対象の方をどういう視点で見れば良いのかということが一つひとつ分かり易くなっている<u>ので、その中から解決の糸口を見つけていくことができる</u>と思う。</p>

39	「ひもときシート」だけでは困難。講義やスーパーバイズできる人等とセットで実践へ落とし込む教育があってこそ、活用価値があると思いました。
40	認知症ケアへの取り組みの初期段階で、新人などの教育には充分活用できる。視点の拡がりや利用者理解という基本的な部分で、自ら気づきを得るのに、 <u>スーパーバイザーがいなくてもある程度の答えが出てくる</u> と思う。
41	取り組み初めから、情報収集・シート記入・指導を受けるまで時間がかかってしまい、対象者の状況が変わってしまう場合がある。 <u>すぐに支援に活かさないのが問題点</u> だと思いました。
42	状態を多面的に捉えることができるのでいいと思うが、実施した事が1回だけのため、活用価値があるのか、現時点では良く分からない。
43	困難事例を困難たらしめる原因は、その事例のことをきちんと理解できていないことからくると思います。「困った！」ではなく、何が困ったのか？どうして困っているのか？一つひとつひもといっていくことにより、捉え方が変わってくると、介護者側は心理的に楽になれるような気がします。
44	情報の整理ができる。 不足している情報など、いろいろな方向から目が向けられる。
45	認知症の方を知る・考えることの出来るツールだと思います。ただ、そこからプランへの落とし込みをしていく時に別なツールが必要であり、その辺りどうかなと疑問に感じます。
46	対象利用者を様々な角度から見つめ直す、今までのアセスメントにはない簡便なツールであるので、使用する価値があると思います。他のアセスメント方式では“複雑で分かりにくさ”があるので、このひもときシートは“分かり易さ”が良いところであると思います。
47	認知症ケアだけでなく、様々な場所で目にする機会が欲しい。 認知症ケアに関わらない人は、全くと言っていいほど関心がないし、知らない。
48	施設内では、まだ1事例しか活用していないが、法人内の複数施設による認知症研究会にて、ひもときネットシートに1事例記入したものを持ち帰り、少人数グループにて事例検討を行った。事前に多面的情報収集ができていたためか、効果的な検討が行えた。受講者からも、このシートを活用していきたいとの高い評価が得られた良い研修となった。
49	ツールの活用に当たっては、リーダーが活用価値を実感していても、現場がパワーレスの状態である時には、その価値観を共有できない場合がある。 本来であれば、シートと同様の思考経路を自身の中に作り出せばベストだが、キーワードとなる一言の重要性すら気づかない場合もあり、効果は個人差が大きいと感じる。 現場での活用は、このツールと併せて、認知症の人のケアについても並行していく必要を感じている。
50	センター方式等を実施する時は、記入量の多さに戸惑うことが多いと思う。実践者研修では、環境の変化が大きく関係している部分については、分かり易くなると思う。ただ、使いこなすには何回か取り組みをしていく必要がある。1回では、この方法で良かったのか不安である。
51	新入職員でも記入出来るところが良い。
52	自分の中で固まっていた概念が、ひもときシートを使うことで見直される。そのためには、どこにでもあるケースだけでなく、困難なケースや医療が深く関わらざるを得ないようなケースを含め、ひもときシートには多くの幅広い事例がアップされなければならないと思う。

53	様々な情報を整理できるのは利点だと感じた。ただ、やりとりの間に利用者の状況が変化してしまうのは残念だった。
54	スタッフが認知症の方を理解するための視点がきちんと整理されており、分かり易いと思います。『そうか、こんな風に考えると良いんだ。』と思いました。 書式に起こすことで頭の中も整理され、他者へも説明し易い。やるべき事ははっきりしてくると思います。
55	センター方式とかぶる部分がある。 記入が多い。
56	BPSDの対応を考えるには、とても使いやすいツールと言える。
57	ケアが上手くいかないのは自分が至らないせい、という感情的な思いから、自分には何が足りないのか、何に気づいていないのかという具体的な思考に組み立て直せる。それが、人との対話(特に人に質問をさせること)により進んでいくので、一種の成功体験に感じられる。ただ、それで得たものを実践につなげることが出来ないと違うストレスが生まれる。
58	他職員の視点も知ることができる。 一つひとつ改めて、生きてきた背景や関係を知ることができると思います。
59	考え方の整理、また、一つひとつの枠を記入していくことで、本当は何が知っていなければならないことなのか、また、何を知ればどこに繋げることができるのかを考えることができると感じます。 ツールとしては、この展開シートから、すぐには導き出せないこともあるように考えます。申し送りでの情報を共有するには、とても分かり易いとも考えました。
60	いろいろ書き出すことで、原因や背景が分かり易くなったと思う。
61	お年寄りの、本当にやりたいことを知るきっかけになる。(分かっているやらないでいるから)
62	多面的に見ることの大事さや、なぜ問題に上げたかなど、整理ができると思いますが、ケアプランに落とし込むのに少し困難さも感じます。